

P17

当院における家族リコールシステムについて

○野本 知佐、本田あかり
ちあーず歯科・小児歯科（砥部町）

【目的】う蝕治療、不正咬合治療の如何によらず、小児の歯科受診行動は小児本人ではなく家族の意思に因るところが多い。当院は小児歯科、一般歯科を標榜しているため乳幼児から高齢者まで様々な年齢層の患者が来院する。郡部であるため家族間のつながりも強く、家族で来院するものも多い。そこで今回、当院における家族リコールシステムを再考することにより、より効果的に家族全体の口腔健康を維持できるようにしたい。

【対象】当院に家族で来院している患者

【リコールシステム】現行のリコールシステムは小児は3カ月毎、成人は歯周病の進行度によって3カ月～6カ月毎にリコールを行っている。予約の方法はハガキと電話である。

子どもが中学生以下の場合は親子同時のリコールを希望することが多いので、親子で同じ日にリコールを行うようにしている。子どもは3カ月間隔なので親子同時に受診した次の予約は子どもだけで取り、子どもが3カ月後に来院した時に親子同日の予約をとっている。

子どもが高校生以上であれば、親とは別々に来院することが多いため、それぞれに予約日を決める。成人の親子の場合、来院方法によって親子同時を希望することがあるので、その場合は親子同日の予約を取る。また夫婦では同日に来院を希望するケースはほとんどないので、別々の予約日にする。

【考察】家族関係の確認は保険証で自動的にカルテコンピューターがしてくれるが問診によって確認することも重要になる。基本的に祖父母は保険証も名字も違う場合が多いので見落とすこともある。母親が働いている家庭では祖父母が子育てに参加していることが多く、祖父母の口腔健康観は大切であると考え。家族でリコールを行うことにより、家族全体の口腔健康に対する意識を高め、小児の口腔状態を良くするだけでなく、家族全体の口腔状態を良くすることができるのではないかと考える。

P18

診療室で子どもたちと楽しく過ごすために

広島臨床小児歯科研究会

○佐久間 信彦 小早川 秀雄 山根 習

小児歯科臨床では、保健指導や治療の効果を高めるために、子どもや親とのコミュニケーションが重要であり、そのためにまずは楽しく来院してもらうことが必要である。また、小児人口の減少・う蝕の軽症化の中で、スタッフにとっても楽しい診療室でありたい。今回、本研究会に所属する3医院〔さくま小児歯科クリニック・小早川歯科医院（以上、広島市）・チャイルド歯科（廿日市市）〕における、地味ではあるが子どもたちと楽しく過ごすための工夫等について報告する。

〔内容〕

- 1 保健指導・啓発のための展示
- 2 「がんばったごほうび」の作成
- 3 咬傷予防シールと咬傷ガードの作成
- 4 希望者の口腔模型の作成
- 5 テレビ・おえかきコーナー等の設置
- 6 待合室・トイレ等の工夫
- 7 保育士による親子への対応の試み

〔考察〕

診療室を華やかにすることなく、手作りを中心とした地道な工夫で、十分に子どもたちと楽しく心の交流を深めることができるとともに、保健指導や治療の効果を高めることが可能である。また、保育士の力を借りて、子どもたちの治療への積極性や親の安心感を引き出すこともとても有効である。